

「聞くこと」「話すこと」の指導研究

一 事柄の概要・要点を聞きとり応答できる能力の育成のために 一

足利市立第三中学校 英語科 1年担当 白石 守

2年担当 松本和男

3年担当 石井淑子

1 はじめに

英語の運用能力からみると、話す能力と聞く能力の両方から構成されていることは明白ではあるが、それらのスキルの指導法という点からみると、夫々独自の指導がされなければならない。

本校では、本年度1年間栃木県教育研修センターの研究協力校として標記について研究する機会を得た。

本校の生徒の実態を分析した結果、一般に我々の「聞くこと」の指導は他の技能に比べて集中的・系統的な意図のもとになされる事が少なく、また学習自身も受身的になり活発な活動がみられないことが多く、従って「話すこと」の言語能力にも問題が生じてくる一等の反省を促された。

生徒にも色々なタイプがある。話す前に十分に聞くことによって項目を積み上げていく必要があるために、十分な入力を与える必要のあるもの。耳にした英語はすぐさま使ってみたいタイプには、チャンスを多く与えなければならない。また音声やフィーリングに興味を持ち正確な音声の模倣に興味を持つタイプ等である。

それらの生徒の実態をとらえた上で、それに基づいた指導改善を図り、聞くこと、話すことの系統的発展的な指導をどう進めていくかが大きな課題になってきた。

そこで本校では、問題解決はあくまでも授業で行うこととし、聞くこと話すことに重点をおいた指導を次の3つの方策のもとに行うことにした。またそれらの指導を、AETとのチーム・ティーチングで如何に生かしていくかも併わせて考えていくことにした。

2 研究方策の内容

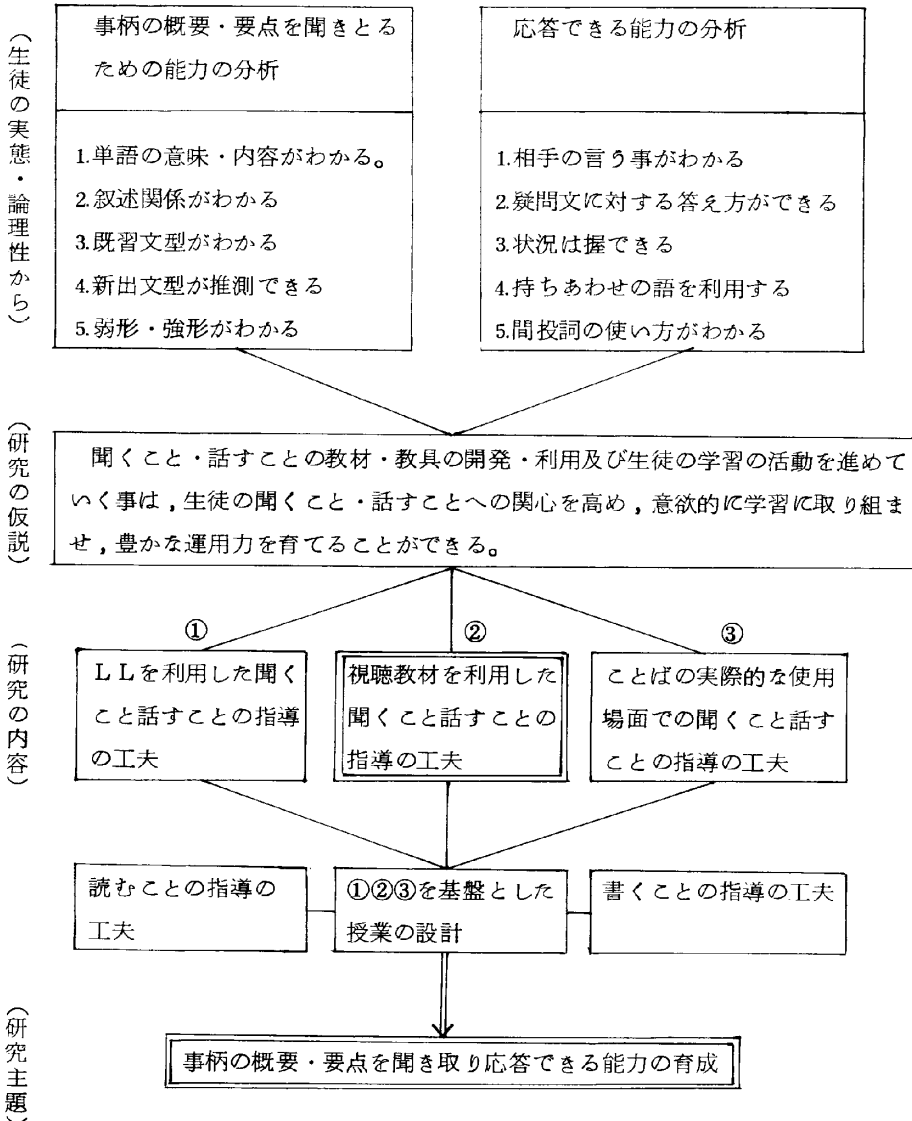
- (1) LLを利用した聞くこと・話すことの学習の工夫
- (2) 視聴覚教材(絵・TP)を利用した聞くこと・話すことの学習の工夫
- (3) 聞くこと・話すことの実場的な場面での運用力を伸ばす活動の工夫
- (4) (1)(2)(3)を導入した聞くこと・話すことに重点をおいた指導の設計(指導課程)の工夫

3 研究の方法

- (1) 研究の深化を図るために、それぞれの教師が1項目を分担し、それを中心に実践する。
- (2) 研究項目に係わる実態調査を行い、それに基づいた指導方針をたてる。
- (3) 研究内容を指導過程に位置づけ、聞くこと・話すことの効果的な指導の追求を図る。

- (4) 研究内容を特定の学年に限定せず，担当学年での研究を工夫する。
- (5) 研究の中心はあくまでも授業とし，その累積・発展を工夫する。
- (6) 聞くこと・話すことの研究を通して，他領域の指導の改善を図る。

4 研究主題追求の構想



5 研究実践の具体策

(1) 聞くこと

イ Following Instructions (指示に対して学習者が何らかの形で反応する)

- ① Physical Response Type (与えられた指示に対して動作で反応する)
- ② Graphic Response Type (聞こえてくる指示に対して絵・図を描いたり、用意された絵・図を使って反応する)
 - ・ Robot Artist (指示に従ってロボットのように1枚の絵を完成させる)
 - ・ Finding the Way (街路図の上で、指示に従って指定された場所から目的地までの道順をたどっていく)
 - ・ Drawing with a Purpose (次の段階の練習で利用される絵や図を指示に従って作成する)

□ Problem Solving

- ① Matching Information (情報の照合)
 - ・ Pictorial - Audio Match (聞こえてくる発音の内容に合致する絵を選び出す)
 - ・ Verbal - Audio Match (音声情報に対して別な言葉を照合させる)
- ② Transferring Information (情報の転移。音声情報を絵や図表に変換していく)
- ③ Exploiting Information (情報の活用。コメント、ステートメントを聞いて相手の専門分野を推測する。話題の推測をさせる)
- ④ Answering Questions
- ⑤ Dictation
- ⑥ Note - taking etc

<指導上の留意点>

- ①未習の語や聞きとれなかった語句をあまり気にせずに最後まで聞きとおすようにさせる。
- ②分かりにくい語句などはその前後から類推するようにしながら、内容を大まかには握らせるようにする。
- ③文の強勢や区切りに注意して、語句・文のつながりや大切な語句に気づかせる。

(2) 話すこと

イ Guided Conversation (誘導会話)

- ① Recreational Dialog (発話補充対話)
- ② Cued Dialog (指示対話)

ロ Role - play (寸劇)

ハ Problem - solving Activity (問題解決活動)

- ① Sharing information with unrestricted cooperation
(図柄などの視覚教材を媒介に自由なやりとりを通してAからBへ情報を伝達する活動)
<例> Eye Twister (間違い探し)
- ② Sharing and processing information (同一の報報やこま切れにされた情報を生徒がそれぞれ入手し、口頭で情報交換しながらその情報中の問題を解決する活動)

<例> Strip story (物語再生)

③ Sharing information with restricted cooperation

(特定の文型・時制・語いなどを前もって決められたルールに従って、Aの持っている情報をBが入手しようとする活動)

④ Processing information

(さまざまな情報が得られる場面において、複数の生徒がそれぞれの役割に応じて自分が知っている情報をもとに、その場面で取り扱うべき問題を解決してゆく)

<指導上の留意点>

- ①発音や文法上の細かいミスは大目に見て発表意欲を高める。
- ②計画的に時間をとり少しでも話させるようにする。
- ③時には時間を限定し、即座に表現させる工夫をする。

(3) 聞くこと・話すこと

- イ 内容についてのQ & Aを行わせる。
- ロ 二文(二文以上)応答 (Yes, I do に終わらずに、プラス1文(以上)で答える)
- ハ Role-play
- ニ Interview
- ホ Picture-telling → picture-drawing

<指導上の留意点>

- ① あいさつや classroom English, song などによって自然な英語の学習環境を作る
- ② 生徒同士の表現活動を大切にする
- ③ 生徒の創造性を大切にし、自由な表現活動をさせる。

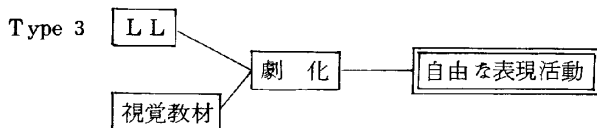
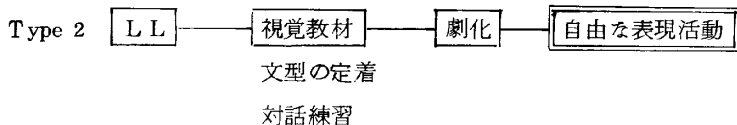
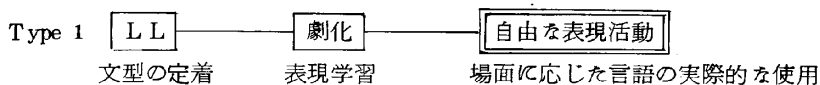
6 LL・視覚教材・場面活動の指導範囲と指導過程の位置付け

(1) LL・視覚教材・場面活動の基本的指導の範囲

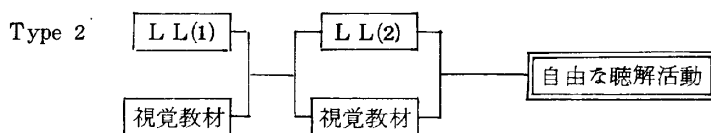
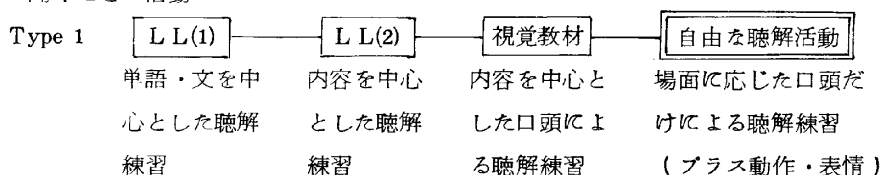
- イ LL・・・言語活動以前の学習活動が中心である。LLによって、話す時に必要とされる項目の十分な入力を与える。・・・文型の定着
- ロ 視覚教材・・・学習活動中心から言語活動への広がりを目指す。・・・文型の定着、内容の導入・対話の練習
- ハ 場面活動(劇化)・・・言語活動の一部分の学習・・・表現学習

(2) LL・視覚教材・場面活動の基本的重層構造

- イ 話すことの活動



□ 聞くことの活動



(3) LL・視覚教材・劇化の指導過程への位置付け

<一単位時間を中心とした場合>

イ LL・・・○新文型導入後の文型の定着のための利用

○まとめとしての確認のための利用

ロ 視覚教材・・・○新教材の内容導入のための利用

○新文型導入後の文型の定着のための利用 (対話練習等への利用)

○まとめとしての確認のための利用 (Q & Aによる内容の確認の為の利用)

ハ 劇化・・・○対話練習の発展のための利用

7 指導の実践例

英語学習指導案

昭和63年11月14日(月)

足利市立第三中学校 1年2組

指導者 白石 守

1. 課名 Lesson 9

(New Crown I)

2. 課の指導目標 3人称・単数・現在形の平叙文，否定文，疑問文，答えなどを理解し，それら表現したり，問答できるようにさせる。

3. 指導観

(1) 目標に関連した生徒の実態

Be動詞の学習の他に一般動詞を使った1，2人称の否定文や疑問文，その答え方などについて学習し，前課では命令文や誘い文なども学習してきた。この課ではいよいよ第三者を紹介したり，問答したりするやっかいな3単現のs(es)について学習する。

一般動詞については語数は少ないが一応理解し，表現できるようになっているが，十分な復習を交えながら，3単現の文を導入し，表現したり，問答できるようにさせたい。

(2) 題材のとらえ方

本課では健がイングランドのペンフレンドのJohnを紹介する。英国では日本と異って野球よりもフットボールの方が盛んであることや，彼は英語よりも音楽の授業の方が好きなどの興味ある内容がもられているので「要点・概要を聞きとること」の領域で最適であり，第3者を対象として問答しあうなどの点においても適している。しかし，反面3単現のs(es)という抵抗のある表現なので配慮生徒にもわかるように十分理解させた上で言語活動にまで高めていきたい。

(3) 研究主題との関連

健のペンフレンドについての紹介を聞いて、その概要を把握し、その内容について問答することもできるという点において、研究主題の「事柄の概要・要点を聞きとり、問答できる能力を育てる」に一致し、言語活動をより一層深めるための一助としたい。

4. 指導計画

時	区分	目 標	指導事項	評 価
1	Part (1)~(3)	(1)~(4)の全 part を黙読させ、健の友だち John についての概要をつかませる。	R(㊦)	John がどんな少年であるか読み取れたか。
2	Part (1)	1, 2 人称の復習を通して 3 単現の s (es) について理解させ表現できるようにさせる。	S(イ)	3 単現の文型がわかり、表現できたか。
3 (本時)	Part (2)	3 単現の否定文に習熟させ、他人をインタビューにより紹介することができる。	H・S(ㇿ)	3 単現の否定文などを用いて、他人を紹介できたか。
4	Part (3)	3 単現の疑問文とその答えなどを使って問答することができる。	H・S(ㇿ)	3 単現の疑問文・答え方がわかり、問答できたか。
5	要点・まとめ練習	課全体を通して、読みとり否定文・疑問文・答えなどを書くことができる。	R(ㇿ) W(イ)	Key Sentence が正確に書けるようになったか。

5. 本時の指導

(1) 題 材 Part(2)

He Does Not Play Baseball

(2) 目 標 3 単現の否定文に習熟させ、これらを使って、他人のインタビュー結果を紹介することができる。

6. 展 開

具 体 目 標	学 習 の 活 動	資 料
	1. あいさつ (Good morning. How are you ?) 2. 歌 (Row Your Boat)	
3人称, 単数, 現在形の平叙文を正しく表現することができる	3. 前時の学習内容をリーディングにより復習する 4. 友人について, 3単現の s(es) に注意しながら likes, plays を使って紹介する This is my friend. His name is Sato. He likes tennis. He plays it very well.	テープレコーダー 教科書 人物 絵・写真
3単現の否定文の作り方を理解し, 表現することができる	5. 否定文の言い方を聞いて理解し, 口頭練習をする T: Do you like natto? P: No, I do not. T: OK. I do not like natto. <u>Saito does not like natto. etc.</u> 6. ピクチャーカードにより口頭練習をする She does not play tennis. etc.	人物 センテンスカード ピクチャーカード
友人を3単現の否定文などを使って紹介することができる	7. 友人インタビューをして, その人についてみんなに紹介する インタビュー { · Do you like swimming? Yes, I do. · Do you like sumo? No, I do not. · Do you play tennis? No, I do not. etc. 紹介 { · His name is ~. · He likes swimming. · He does not like sumo. · He plays baseball. · He does not play tennis. etc. 8. その人物が誰であるかを聞いて当てる " Who is he (she) ? Game " 例 { · She lives in ~ · She likes softball. · She does not play tennis. · She likes math. · She does not like milk.	チェックカード 人物 チェックカード
教科書セクション2の内容を聞いて理解できる	9. テープを聞いて, その内容について日本語の質問に答える	テープレコーダー

指 導 上 の 留 意 点	評 価	時
<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習の雰囲気をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲が感じられるか 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読むことにより、1人ひとりに前時の学習内容を思い出させる ・3単現のs(es)について確認させ、新文型への橋渡しにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・3単現の平叙文がs(es)の発音に注意しながら正しく言えているか 	7
<ul style="list-style-type: none"> ・do not, does not のコントラストにより文型を理解させる ・センテンスカードにより視覚で確認させる ・口頭練習を十分にしてから、表現活動をさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3単現の否定文がわかり、正しく言えるようになったか (サンプル生徒により確認) 	15
<ul style="list-style-type: none"> ・誰にインタビューしてもよいことにするが、相手がいなかったのないように留意させる。 ・その人がいやがるようなことはきいたり、紹介したりしないようにさせる ・できるだけ多くのことを紹介させるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・発表途中で、誰であるかがわかってしまっても、最後まで聞かせる ・その人(答えの人物)の方を見たりしないようにして発表させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3単現の否定文などを使って、友人を紹介できたか (発表により確認) <ul style="list-style-type: none"> ・内容を正確に聞きとろうとしていたか 	20
<ul style="list-style-type: none"> ・聴取観点を2・3与えてから聞かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が聞きとれたか (挙手により確認) 	5

学習補助資料

第1学年 Les.9 Part(2) 展開7の部分について

1. 学習のねらい

- 1) 既習の疑問文を使って相手にききたいことを自由にインタビューさせ、実際の場面として言語活動を生かす。
- 2) インタビュー結果を紹介する場面として、3人称・単数・現在の肯定文・否定文の文型を実際の場面に生かす。
- 3) インタビュー人物名をかくして、ゲーム的に扱い、生徒の興味を喚起する。

2. 資料の意図

- 1) インタビューの内容・方法について予め理解させ、モデルインタビューを提示してから行動させる方が能率的である。
- 2) 住所・氏名とスポーツ・教科・食べ物の好き・きらいにしぼってインタビューをさせた方が能率的であり、焦点化できる。
- 3) 語彙が少ないため必要最低限度の単語を準備して、インタビューに当たらせる方が能率的であり、配慮生徒にとって容易である。

3. 留意点

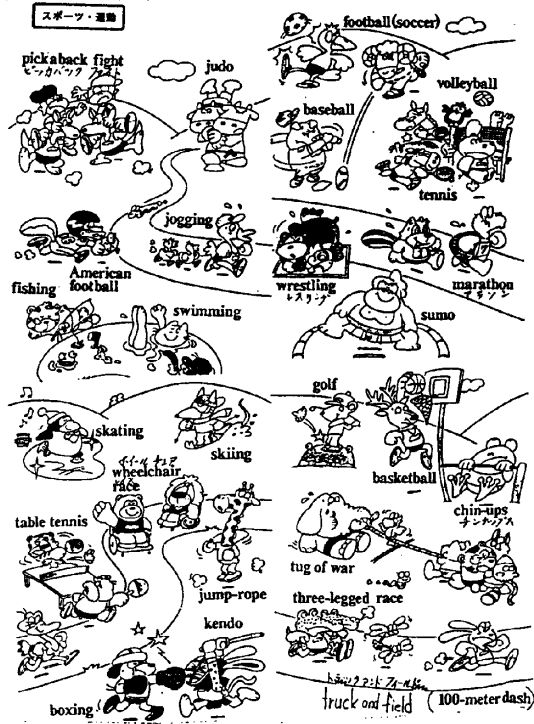
- 1) スポーツ・運動名・教科名については前時に指導しておき、英語で言えない単語は日本語でも、よしとする。
- 2) 正確に書くよりも、言語活動として表現できることを最優先する。
- 3) 早くできる者には「その他」のことについてできるだけ多く挑戦させる。
- 4) できる者には多くの人にインタビューさせる。

インタビュー資料

友だちの紹介資料

① His(Her) name is

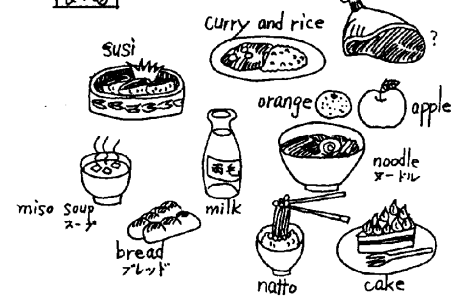
Do you live in		住所	----->	He(Sh) lives in	
Do you like		スポーツ	----->	He(Sh)	好き・きらい 何を
Do you play		スポーツ	----->		
Do you like		教科	----->		
Do you like		食物	----->		
Do you		その他の	----->		



教科・科目

国語 (日本語)	Japanese
書字	penmanship and calligraphy ペンmanship
社会	social studies ソシヤル スタディズ
数学	mathematics 数学 math マセマティクス
理科	science サイエンス
音楽	music
美術	fine arts ファイン アーツ
保健体育	health and physical education ヘルス
技術・家庭	industrial arts and homemaking インダストリアル アーツ アンド ホームメイキング
道徳	moral education モラル エデュケーション
特別活動	special activities スペシャル アクティビティズ
学級活動	homeroom activities ホームルーム アクティビティズ
クラブ活動	club activities クラブ アクティビティズ
英語	English

食べ物



外国語科（英語）学習指導案

昭和63年11月14日（月）

足利市立第三中学校 2年3組

指導者 松本和男

1. 課名 Lesson 9 Gestures Talk (NCES Book 2)

2. 課の指導目標

be going to を用いて未来について表現したり，感嘆文を用いて自分の驚きや喜びなどを表現したり，疑問詞 why を用いて相手に理由を尋ね，because を用いてその問いに答えさせたりできるようにさせる。

3. 指導観

(1) 生徒の実態

未来形については，すでに Lesson 7 で will がでていたので < be going to > についても比較的理解しやすいと思われる。使う場をさらに数多く設定し，しっかり定着させ，使えるまでに高めたい。また，感嘆文については語順に特に注意させ，驚き，喜びを表現できるようにせたい。相手に理由を聞く聞き方である why とその答えの because は，日常の場で使うことが多いのでしっかり習得させたい。

(2) 題材のとらえ方

本課は人間の伝達手段は，言葉だけではなく，身振り言語，標識等について例を示している。また，文化によって同じ意味でもジェスチャーが異なっている。このことを改めて考えることは生徒にとっても興味深いものだと思う。そこで聞くこと，話すことの指導では「話題の中心をとらえて必要な内容を聞きとる」に重点を置き，言葉以外の伝達方法についてとらえさせていきたい。また，be going to，感嘆文，why で始まる疑問文とその答えの文は，日常頻繁につかわれる英文なので「相手の意向を聞きとる的確に話すこと」まで高めたい。また，各セッション毎に新しい言語材料が出てくるので，十分理解できるように留意する。

(3) 研究主題との関連

「言葉以外の伝達手段」について聞きとらせるとともに，be going to，感嘆文，why because の文を用いて，身近なことについて表現できるようにさせる。

指導計画

時	区分	目 標	指導項目	評 価
1	Part (1)~(4)	人間の意志伝達的手段は言葉だけではなく、様々なものがあり文化に根ざすものであることを聞きとらせる。	H(ア)	communicationの方法が様々であり、文化によっても違っていることが理解できたか。
2	Part (1) (本時)	be going to 等を用いた文を理解し、それを用いて身近なことを表現したり、問答できるようにさせる。	H・S(ウ)	友人にインタビューをし、予定について聞きとることができたか。
3	Part (2)	日本で使っている様々なジェスチャーについて考えさせ、英語でどんな意味なのか言うことができるようにさせる。	S(イ)	自分たちが日頃使っているジェスチャーにあらためて耳を向けより知ろうとしたか。
4	Part (3)	how や what で始まる感嘆文を使って身近なことについて、自分の気持ちを表現することができるようにさせる。	H(ア)S(イ)	自分の驚き、喜びを感嘆文を使って表現できたか。
5	Part (4)	why - because を用いて理由を聞いたり、答えたりすることができるようにさせる。	S(ウ)	日頃しているが、最近しなかったことの理由などインタビューできたか。
6	Part (1)~(4)	課全体についての英問に対し、学習した表現等を使って答えさせる。	H・S(ウ)	学習してきた表現を用いて、できるだけ多くの言葉で答えることができたか。

5. 本時の指導


(1) 題 材：Part(1) We Are Going To Discuss Some Of Them

(2) 目 標：be going to 等を用いた文を理解し、それを用いて身近なことを表現したり、問答できるようにさせる。

(3) 授業の視点：あたえられた絵について、これから何をしそうなのか be going to を使って表現させ、ひいては友だちに今後の予定についてインタビューできるように指導していきたい。

(4) 展 開

具 体 目 標	学 習 の 活 動	資 料
	1. あいさつ 2. short - speech	
絵を見て英語の説明を聞き 新文型〈be going to へ〉の意味を理解するこ とができる	3. P56 についての絵を見ながら, 英語の説明を聞き, 何に ついて論じられているか理解する 4. 新文型 We are going to discuss some of them を聞き理解する 5. 絵を見て何をしようとしているところかを聞き, 新文型の 理解を深める	絵 Sentence board TP
〈be going to へ〉を 用いて表現することができ る	6. 学習プリントの①番で絵を用いて表現練習をする 7. 学習プリントの②を用いて, 家に帰ってから何をするつも りであるか記入し, となりどおしで発表する	プリント① TP プリント② TP
〈be going to 〉を用 いて友人の今後の計画につ いて聞き, みんなに発表す ることができる	8. 学習プリントの①を用いて〈be going to へ〉の疑問 文・否定文を練習する 9. 学習プリントの③をうめさせてから〈be going to へ〉 を用いて, 友人に週末の予定についてインタビューをし, 発 表する	Sentence board プリント① プリント③ ④

指導上の留意点 □ 英語指導上の留意点 △ 同和教育上の配慮	評 価	時
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で発表させ、聞いている生徒にも集中させる □ 生徒たちから質問ができるようにさせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなにわかってもらおうという気持ちがみられたか ・聞き手からの反応があったか 	5'
<ul style="list-style-type: none"> △ 絵を示しながら説明する際、聞きとる観点を示し、抽出生徒にも理解しやすいようにする □ Sentence board を使用し、理解の助けとする <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">TP より be going to を理解しやすいようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きとる観点に従って理解できたか ・新文型の意味について理解できたか 	10'
<ul style="list-style-type: none"> □ 理解が難しいときは、もう一度全体で確認させる □ 教師の予定をTPを用いて示し、be going to を使っての表現がしやすいようにさせる △ 抽出生徒へは、机間巡視をし、援助する 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表により理解できたか評価する ・集中して発表できたか 	15'
<ul style="list-style-type: none"> □ Sentence board を用いて説明し、練習させる。その際、大きな声で練習させる □ 日本語を使うことなく、できるだけ多くの生徒のところへ行き、インタビューをさせ、プリントに記入させる まちがいを気にしないで、発表させる 学習プリント3を理解させて、自信をもってできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いて積極的に取り組み多くの友人と話そうとしていたか 	20'

英語科学習プリント

① 絵を見て未来を表わす言い方で

言ってみよう。



①



②



③



④



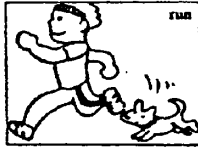
⑤



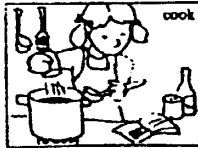
⑥



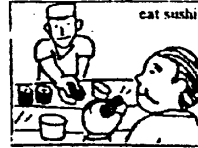
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

2-() 日()

② 今日の家に帰ってからの予定を英語で

書きこんでみよう。

Five
Six
Seven
Eight
Nine
Ten
Eleven
Twelve
One
(a.m.)

I am going to ~ at five.

③ 週末の予定について

A : I am going to _____ next Sunday.

Are you going to _____ next Sunday ?

B : No , I am not. I am not going to _____ .

A : What are you going to do next Sunday ?

B : I am going to _____ .

④ 友だちに週末の予定について聞いてみよう。

	友 人 の 名	何をするつもり(いつ,どこで,だれと……)
1		
2		
3		

外国語科（英語）学習指導案

昭和63年12月12日（月）

足利市立第三中学校 3年1組

指導者 石井淑子

1. 課名 Lesson 8 A Pot of Poison

2. 課の指導目標

〈to + 動詞の原形〉や疑問詞が文中に入っている用法等を用いた事柄の概要や要点をとらえて話したり応答したりできるようにする。

3. 指導観

(1) 生徒の実態

命令文や疑問詞ではじまる疑問文は授業中もよく使っているが〈Be 文〉の命令文や疑問詞のいくつかについては現在でも完全に定着しているとは言えない生徒も居り、自然に、即座に応答させることからみると、今後も継続指導を要する。従って本課の新文型を学習する際に、また新たな戸惑いを覚えることは容易に想像されるので、数多いドリルと継続指導に留意していきたい。

(2) 題材のとらえ方

本科は、日本人にはよく知られている「毒のつぼ」をアレンジしたもので、日本の物語を英語で学ぶ面白さを生徒達は発見し楽しむと思われる。

内容理解は容易であろうと考えられるので、新言語材料を中心に表現力をつけることに重点をおきたい。

(3) 研究主題との関連

事柄の概要や要点をとらえさせる指導として、教科書以外の教材や自作資料を与えて練習させることもしていきたい。また教科書のユーモラスな内容に誘発されて劇化への意欲を持つと思われるので楽しみながら表現力をつけさせるよう図りたい。

4. 指導計画

時	区分	目標	指導事項	評価
1	Part (1)~(5)	物語のあらすじをつかませる。	H(ア)	おしろうさんと小坊主達の物語の内容が理解できたか。
2	Part (1)	< tell +(人)+ to >などの言い方を用いて表現できるようにさせる。	S(イ)	命令文で相手を行動させたり、それを新文型を用いて他に伝えたりすることができたか。
3 本時	Part (2)	文の中に疑問詞が入った言い方等を用いて表現したり答えることができるようにさせる。	H(ア) S(イ) (ウ)	各グループが場面を想定し、その中で新文型を用いた劇を演じることができたか。また演じた内容を理解し質問に回答することができたか。
4	part (3)	文の中に疑問詞が色々な動詞と共に入っている言い方等を用いて表現したり答えることができるようにさせる。	H(ア) S(イ) (ウ)	新文型を用いた文等があるいくつかの文からなるまとまった話を聞いて内容を理解したり、回答することができたか。
5	Part (4)	疑問詞の入った従属文のある疑問文を用いて表現したり、答えることができるようにさせる。	H(ア) S(ウ)	チャートを用いて、新文型等を用いて表現したり回答することができたか。
6	Part (5)	疑問詞の入った従属文のある否定文を用いて表現することができるようにさせる。	S(イ)	チャートを用いて新文型等を用いて表現したり回答することができたか。
7	Part (1)~(5)	教科書以外の教材や自作資料等を用いて、話の概要をとらえて話したり応答したりできるようにさせる。	H(ア) S(イ) (ウ)	話をきいて新文型等を用いた要点を相手に伝えたり質問に回答することができたか。

5. 本時の指導

(1) 題材：Part 2 I Wonder What Is In The Pot

(2) 目標：文の中に疑問詞が入った言い方等を用いて表現したり、答えることができるようにさせる。

(3) 授業の観点：新文型を用いた言い方を含むスキットをグループ毎に演じさせ、さらに、そのスキットに対する質問に対しても正しく応答することができるようにさせたい。

(4) 展 開

具 体 目 標	学 習 の 活 動	資 料	
	1. あいさつ 2. Warm Up Speech		□
絵を見ながら英語の説明を聞くことにより、本時の新文型の意味や用法を理解する	3. 絵を見ながら新文型の意味や用法を考える ・ I wonder what ー . や I wonder who ー . 等を用いた英語を聞く 4. 新文型 " I wonder what this is. " の説明を聞き理解する。 ・ substitution drill 等で理解を深める ・ 過去形や " ー what is in the pot. " 等や " I wonder. " についても学習する。	絵 (DV)	□ △
チャート等で理解をさらに深め新文型を用いて表現することに慣れる。	5. チャートを見て新文型で表現する。	LL	□
新文型を用いた言い方を含むスキットをグループで演じ、そのスキットについての質問に正しく応答する。	6. ビデオでスキットの例を学習し参考にする。 (教科書 P53 のビデオ) 7. ビデオのスキットについての質問に答える Q Did the priest wonder ? Q Who wondered ? Kan wondered what was in the pot. etc 8. グループ毎に新文型を用いた言い方を含むスキットを演じる。 座席の生徒達は、スキットについての質問に応答する	VT	□ □ △

<p style="text-align: center;">指 導 上 の 留 意 点</p> <p>□英語指導上の留意点 △同和教育上の配慮</p>	<p style="text-align: center;">評 価</p>	<p style="text-align: center;">時</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で発表させる。 □単発の質問に終わらないようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に質問できたか ・コミュニケーションできたか 	<p style="text-align: center;">7'</p>
<p>△抽出生徒の口が動いているかを留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で素早く言うことができたか 	<p style="text-align: center;">10'</p>
<ul style="list-style-type: none"> □現在形と過去形の両方について練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター・インターカムでチェックをする 	<p style="text-align: center;">8'</p>
<ul style="list-style-type: none"> □音声はヘッドセットを通してききとらせる。 □新文型を用いて話したのは誰か、どのような文かを聞きとるように指示する。 △抽出生徒は、新文型を用いて話したのが誰であるか答えられるだけでもよい。 ・必要に応じて板書でフォローする。 ・応答は素早くできるように、指名の際は列毎に競わせる方法をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出生徒にはインターカムで聞きとりの程度を確認しておく ・演じる場合は見ている者によくわかるように演じられたか。 ・新文型が効果的に用いられたか。 ・見る態度に集中力があつたか。 	<p style="text-align: center;">25'</p>

8. おわりに

「聞くこと」「話すこと」の言語能力を高める為に以上の通り3つの方策を中心に研究を進めてきたわけであるが、研究の最後の時期に至ってもなお思うような指導ができず今後も指導研究を継続していく必要性をつくづく痛感した次第である。

最後に、3年生の授業から1例をあげ、日頃生徒達も教師と共に努力している姿を知っていたできれば幸いに思う。

[Speaker A]

Hello, everyone. I am lucky in lotteries. I often get a prize and I got many presents. For example, a ball, a watch, a penstand, a lunch-bag, a Doraemon-cup, and so on. The other day I applied for an invitation-ticket for the Ton-Nan-Sha-Pei's concert. But after I applied it, I noticed that... there is no one who likes the Ton-Nan-Sha-Pei, in my class. Even if I could get the ticket, I have to go there alone. So this time I don't hope to get a prize so much. Or will someone go with me?

Student B: I'm not lucky in lotteries. How can you get a prize?

Will you tell me how to get it?

A: I don't know... I'm sorry. I'm just lucky...

B: I see.

Student C: What is "lotteries" in Japanese?

A: "Kuji" ... "Kuji-un."

C: I see. Thank you.

Teacher: Who knows "Ton-Nan-Sha-Pei"? Please raise your hand.

(Only some did) Only some... hrm... Who is interested in it? (Student D quickly raised her hand.)

Student D: I don't know it, but I want to go to the concert. A, if you pay money for the concert and lunch, I will go!

(Laughing)

A: Umm... OK, let's talk after school!

(Everyone laughs again)

以下省略するが通常2名の speaker (名列順) に対し自主的に質問をさせている。1年生は3学期からスピーチ等に慣れさせ、2年生でほぼ3年生に準じた形が定着している。

終わりにになりましたが、この研究を通じて懇切なる御指導を下さいました栃木県教育研修

センター指導主事の巨泉和男先生はじめ、安足教育事務所指導主事の高橋知俊先生、足利市教育研究所の駒場貞夫先生と、研究のために時間の確保その他色々な面で御援助、お導き下さいました本校菊地治夫はじめ職員の先生方に心から深くお礼申し上げます。

評

本校は、昭和63年度栃木県教育センターの研究協力校として指定を受け、「聞くこと」・「話すこと」の指導法の研究にとりくみました。これは、その研究の内容や方法についての概要を示したものです。

学力の実態調査によって課題を摘出、それに対する指導改善の方策の検討、研究実践の具体策、実践など、言語能力を高めるための手順は各学校で英語教育にたずさわるものにとって多くの示唆を与えてくれるものと思います。本校の研究の特徴は3人の英語科担当教師がそれぞれ得意とする指導法 — LL利用、視聴覚教材（絵、OHP）利用、実際の場面設定の工夫 — を中心に研究を推進し深化を図ったこと、研究の中心を授業としその累積、発展につとめたことにあります。

授業実践においては、生徒の学習意欲を喚起させるために生徒の活動場面をできるだけ多くとり入れた展開を工夫したり、生徒の日常生活と密着した教材を数多く準備するなどのさまざまな工夫がなされていました。LLについては自作ビデオ教材を併用するなど多様な活用法が工夫され、本市唯一のLL設置校として先導的な役割を十分果たしているものと思われます。

特に中学校における「聞くこと」、「話すこと」の言語活動は、言語によるコミュニケーションの基礎能力を養ううえで極めて大切です。この研究が各学校で役立つことを期待しております。